

緊急事態宣言時における武庫川女子大学子育てひろばの取り組み

Support for child-rearing families of Mukogawa Women's University Community-Based
Child-Rearing Support Center under a State of Emergency

鶴 宏史, 青木 登子, 加藤 三保

森田 美香, 岡田 朱世

TSURU, Hirofumi AOKI, Noriko KATOH, Miho

MORITA, Mika OKADA, Akeyo

武庫川女子大学 学校教育センター紀要

第6号 2021年

【実践報告】

緊急事態宣言時における武庫川女子大学子育てひろばの取り組み

Support for child-rearing families of Mukogawa Women's University Community-Based Child-Rearing Support Center under a State of Emergency

鶴 宏史* 青木 登子** 加藤 三保** 森田 美香** 岡田 朱世***

TSURU, Hirofumi* AOKI, Noriko** KATO, Miho**
MORITA, Mika** OKADA, Akeyo***

要旨

本研究の目的は、緊急事態宣言時における武庫川女子大学子育てひろばの取り組みを紹介することである。2020年3月3日～5月29日の期間、武庫川女子大学子育てひろばは新型コロナウイルス感染症予防や政府の緊急事態宣言のため臨時休館した。臨時休館中は地域の子育て家庭は来館できないため、武庫川女子大学子育てひろばは、地域の子育て家庭に向けて、①子育てひろば利用者への手紙の発送、②子育てひろば職員による電話での子育て相談、③SNS (Facebook) を通じた支援、を実施した。今後の課題として、①これらの取り組みの効果検証の実施、②再び休館した際のさらなる取り組みの検討、③子育てひろば再開後の事業展開のあり方、が挙げられた。

キーワード：地域子育て支援拠点事業 武庫川女子大学子育てひろば 緊急事態宣言 SNS

1. 地域子育て支援拠点事業の概要

武庫川女子大学子育てひろばは、地域子育て支援拠点事業（一般型）を実施する事業所である。地域子育て支援拠点事業は、児童福祉法第6条の3第6項において「乳児又は幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業」と定められている。具体的な事業内容としては、「地域子育て支援拠点事業実施要綱」において、子育て家庭——主に3歳未満の児童およびその保護者——を対象に、①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、②子育て等に関する相談、援助の実施、③地域の子育て関連情報の提供、④子育ておよび子育て支援に関する講習会等の実施、の4つの基本事業を行うとされている。また、一般型は、常設の地域の子育て拠点を設け、地域の子育て支援機能の充実を図る取組を実施するもので、原則として週3日以上かつ1日5時間以上、子育て家庭が交流する場を開設するものである。

武庫川女子大学子育てひろばもこの実施要綱に従って、本学教員・職員といった人材を活用しながら、さらに武庫川女子大学の学生や地域のボランティアの受け入れながら事業を実施している。また、武庫川女子大学子育てひろばは、月曜日、火曜日、金曜日の週3回開館し（ただし祝日、年度初め・終わり、年末年始は開催しない）、開催時間は午前9時30分から12時、午後1時から午後3時30分の5時間である。週3回と開館日数は少ないが、立地のよさから西宮市内の地域子育て支援拠点事業所21施設中、一日あたりの利用者数は3番目に多い⁽¹⁾。

2. 緊急事態宣言前後の武庫川女子大学子育てひろばの状況

新型コロナウイルス感染症対策に対して、武庫川女子大学子育てひろばは、「保育所等における新型コロナウイルスへの対応について」⁽²⁾に基づいて対応していた。その後、新型コロナウイルス感染症

* 教育学科准教授 ** 武庫川女子大学子育てひろば臨時職員

*** 武庫川女子大学子育てひろば臨時職員・臨床教育学研究科博士後期課程

の拡大に伴い、政府は2020年2月25日に企業に対して、発熱等の症状が見られる職員等への休暇取得の勧奨、テレワークや時差出勤の推進等を強力に呼びかけを行い、さらに、2020年2月27日には、全国の小中高・特別支援学校に3月2日から春休みまでの休校を要請した。これを受けて、西宮市立の地域子育て支援拠点事業所が2020年3月3日から4月6日まで臨時休館を決定した。武庫川女子大学子育てひろばもこれに併せて、同じ期間、臨時休館とした。

2020年4月7日に政府が東京都や大阪府、兵庫県など7都府県を対象に法律に基づく「緊急事態宣言」を行い、その後全国での「緊急事態宣言」が行われ、最終的に5月31日まで延長された。そのため、武庫川女子大学子育てひろばを含めた西宮市内の地域子育て支援拠点事業所が、数度の臨時休館の延長を行った。最終的に武庫川女子大学子育てひろばは2020年5月29日まで臨時休館し、6月1日より再開した。

本稿では、緊急事態宣言時における武庫川女子大学子育てひろばの取り組みについて紹介することを目的とする。

3. 緊急事態宣言時における武庫川女子大学子育てひろばの3つの取り組み

2020年3月3日より武庫川女子大学子育てひろばは臨時休館し、職員は開館に向けて打ち合わせや様々な準備を行ってきたが、4月中旬を過ぎても再開の目途がつかなかった。その中で、地域の子育て家庭は子育てひろばに来館できないが親子のためにできることは何かを協議し、設備や予算を勘案し、以下の3点のことを実施した。

(1) 手紙の発送

2020年2月と3月2日の利用者110世帯に、図1のような手紙を4月末に送付した。

手紙の内容は安否確認と、後述する電話による子育て相談、およびFacebook開設のお知らせ、手作り玩具の作り方・遊び方である。手紙の発送を2020年2月と3月2日の利用者限定したのは予算的な問題もあるが、利用歴が長い場合、ある程度利用者同士のつながりがあり孤立感が少ないと予想され、一方で2月・3月で新規に利用した場合、知り合いが少なく孤立感や不安がより高いと予想したためである。

ホームページを利用せずに手紙を送付した意図は、緊急事態宣言下で外出もままならない中で、テレビやインターネット上で様々なかつ過剰な情報が錯綜し、利用者が情報の飽和状態で疲弊していると考えたためである。つまり、手紙に触れる機会が減っている現在であるからこそ、手紙を受けとるうれしさ、行間を読む楽しさや、心地いいひと時を生むと考えたのである。さらに、他者と会えない状況下で、人と人のつながりが感じられるように、また、親子で何度も手に取ってもらえることも踏まえて、敢えて手紙を選択した。

また、手作り玩具の作り方・遊び方であるが、後述するFacebookと連動させて遊べる手作り玩具(図2参照)を同封し、親子で楽しめるように工夫した。

(2) 電話による子育て相談

子育て相談は、通常は「地域子育て支援拠点事業実施要綱」に定められる4事業の一つである「子育て等に関する相談」として、月に一回、本学の教員が担当し実施しており、利用者のニーズは高い。子育てひろばが閉館中は当然ながら子育て相談を実施できないため、利用者や地域の子育て家庭の不安軽減を目的として、子育てひろばが再開するまで、子育てひろばの職員による電話での子育て相談

を実施することにした。また、子育てに関する相談の対応ももちろんであるが、「誰かと話したい」という親のニーズもあるのではないかと予想されたのも実施した理由である。

前略 新型コロナウイルスの影響に伴い、落ち着かず不安な毎日を過ごされているかと思いますがいかがお過ごしでしょうか？

武庫川女子大学子育てひろばも3月より閉館が続き、開館に向けて準備を進めているところですが、皆さんの元気な声を聞くことが出来ず、とてもさみしく感じております。

通常であれば、ひろばに来館いただき、気軽にお話することが出来るのですが、今はそれが難しいため、スタッフによる電話での育児相談をはじめることになりました。今子育てのことなどで困っていることや少しだけ聞いてほしいことなどあれば、お気軽にご利用下さい。

《 電話での育児相談 》

期間：子育てひろば閉館中の月・火・金（5月1日～開館日まで）

時間： 10：00～11：00 13：30～14：30 （お一人 15分まで）

電話番号：0798-61-2571

※開館日については武庫川女子大学子育てひろばのHPをご覧ください。

そして、安心して外出が出来ない状態ですが、お家ではお子様とどのように過ごされていますか？親子遊びのツールとして少しでも楽しんでもらえたらと手作り玩具を同封いたします。使っていただければ幸いです。

《 電話での育児相談 》

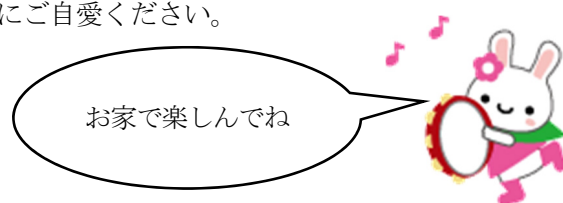
期間：子育てひろば閉館中の月・火・金（5月1日～開館日まで）

時間： 10：00～11：00 13：30～14：30 （お一人 15分まで）

電話番号：0798-61-2571

※開館日については武庫川女子大学子育てひろばのHPをご覧ください。

皆様とまた元気にお会いできることを楽しみにしてお待ちしております。では、くれぐれもお身体を大切にご自愛ください。



草々

武庫川女子大学 子育てひろば
スタッフ一同

図1 利用者への手紙

図1の手紙にもあるように、電話の相談時間は、月曜日・火曜日・金曜日の10時～11時、13時30分～14時30分で、一人につき15分までを目途とした。子育て相談の実施にあたっては、表1のような様式を準備するとともに、4名の職員が対応するために、実施方法、職員の対応方法、紹介・仲介できる社会資源の一覧から成るマニュアルを作成し、それに基づいて対応することとした。

なお、電話に子育て相談の利用は1件のみで、子どもの睡眠に関する問い合わせであった。電話による相談については、先行研究³⁾から少ないことが予想されたが、この状況下ではもう少し利用者がいると考えていた。電話相談は匿名性、相談へのアクセシビリティの改善、即時性といったメリッ

トがありつつも⁽⁴⁾、「電話をする」という行為自体が保護者にとって心理的ハードルが高いのかもしれない。それでも困った時には相談できる場所の存在が、子育て家庭の潜在的な安心材料となることは、子育てひろばの役割としては重要であると考えられ、今後の検証が求められる。

表1 電話での育児相談 記録用紙

記録番号		日付	月 日 ()	
時間	時 分～	時 分	記録者	
相談者氏名			子育てひろばの利用	有 ・ 無
子どもの氏名			子どもの月齢	歳 か月
相談内容	(育児 ・ 発達 ・ 栄養 ・ しつけ ・ 問い合わせ ・ その他)			
何で電話での育児相談を知ったか	お手紙 ・ facebook ・ HP ・ 知人等から			
備考				

(3) SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) を通じた支援

武庫川女子大学子育てひろばの Facebook を開設した。Facebook での発信は、緊急事態宣言時において、武庫川女子大学子育てひろばの利用者で、前述の手紙の発送ができなかった親子や、その他多くの子育て家庭に対しても発信し、子育てひろばとつながる意識を持てるよう行った。そして、様々な SNS がある中で、Facebook にしたのは、Facebook が本名での登録のため、子育てひろば利用後に保護者同士の交流のきっかけへと広がっていく可能性があると考えたからである。

Facebook には、子育てひろば周辺の様子や季節を感じる身近な動植物などの自然を投稿したり、ホームページのお知らせを投稿したり、職員による手遊びの動画を投稿したりした。動画にする手遊びは、これまでに子育てひろばの開館時に職員と親子と一緒に楽しんでいたもの、かつ一般的にも広く知られているものの中から選んだ。親しみのある手遊びを選んだのは、保護者も子どもも遊びやすく、楽しめると思ったからである。

手遊びの動画を投稿して親子が楽しめるようにするだけでなく、前述のように、図2のような手作り玩具(手作り製作の型紙)と連動させて遊べるようにした。例えば、Facebook で「むすんでひらいて」の手遊びの動画を投稿するとともに、「むすんでひらいて」に合わせて遊べるような手作り玩具(手作り製作の型紙、図2)も投稿した。保護者がこれをダウンロードして親子で色塗りをした上で、製作をして手遊びに合わせて遊ぶのである。手作り玩具は手紙に同封した、あるいは Facebook に投稿した塗り絵の用紙のみで作ることができるものにした。緊急事態宣言化で不要不急の外出自粛が求められる中で、玩具を作るために必要な材料を調達することは利用者の負担になると考えたからである。塗り絵にしたことで、年齢の低い子どもは保護者が代わりに色付けをすることによって、リラックス効果を得ることができるのではないかというねらいもある。

なお、子育てひろば再開後に、多くの利用者から手作り玩具を実際に作ったという声が寄せられた。

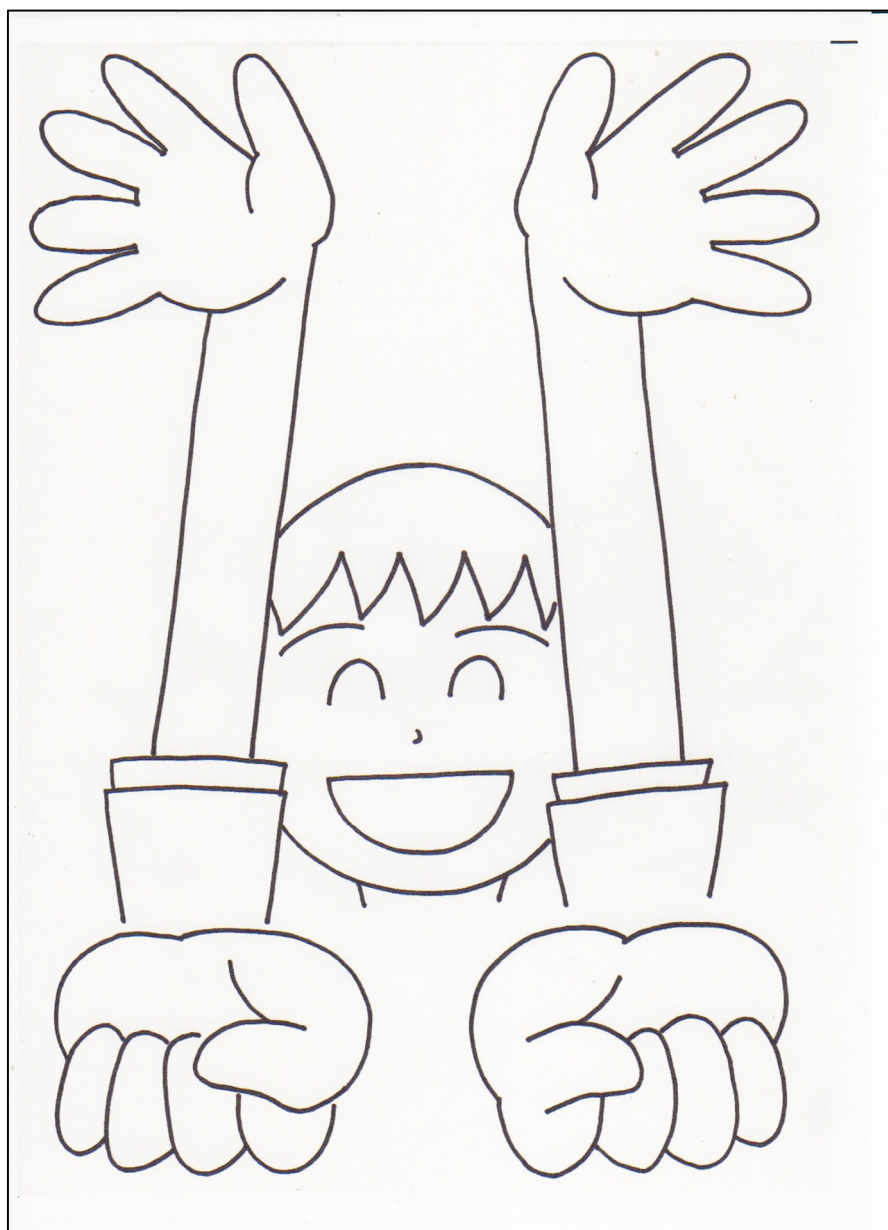


図2 手作り玩具（手作り製作の型紙）

4. 今後の課題

簡単ではあるが、緊急事態宣言時における武庫川女子大学子育てひろばの3つの取り組みを紹介した。2020年6月1日に子育てひろばの事業を再開したが、これら3つの取り組みが利用者や地域の子育て家庭にどのように影響したか、その効果などについては検証できていない。手作り玩具については前述のように多くの利用者から反応があったが、正確なデータではない。今後の課題の一つ目として、利用者にインタビューやアンケートを通して3つの取り組みの有効性を明らかにすることが挙げられる。

2つ目の課題は、今後また緊急事態宣言が出され、子育てひろばが休館した際の取り組みの見直しと検討である。例えば、4月の話し合いでは、Zoomなどを利用したオンラインでの子育てひろばが

計画されたが、武庫川女子大学子育てひろばのパソコンにはカメラが内蔵されておらず、ウェブカメラ（外付けのカメラ）は2020年4～5月は品切れが続き入手できず実施には至らなかった。子育てひろば全国連絡協議会による「緊急オンラインブロック会議」では、緊急事態宣言時における全国の地域子育て支援拠点事業所での取り組みが明らかになっているが⁽⁵⁾、これらも参考して今後の取り組みについて検討したい。

最後に、今後の武庫川女子大学子育てひろばの事業展開についてである。2020年6月1日に事業を再開したが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、午前・午後ともに各親子10組に限定している。全国の各地域子育て支援拠点事業所でも予約制にしたり、環境設定を工夫したり、オンラインとの併用で支援を行っている⁽⁶⁾。

いずれにせよ、親子の居場所づくりや親子の交流という三密（密閉空間、密集場所、密接場面の3つの条件が同時に重なる場）を避けたい地域子育て支援拠点事業所の活動において、親子の安全や職員の安全と、子どもの育ちと親の育ちの両方をにらみながら支援を展開することが重要である。

注・引用文献

- (1) 「令和元年度 西宮市地域子育て支援拠点事業連絡協議会資料」（令和元年2月26日）。
- (2) 厚生労働省子ども家庭局総務課少子化総合対策室・厚生労働省子ども家庭局保育課・厚生労働省子ども家庭局子育て支援課「保育所等における新型コロナウイルスへの対応について」（令和2年2月13日、2月27日更新）。
- (3) 伊藤篤・倉石哲也・鶴宏史・奥村千鶴子・中條美奈子・松田妙子『地域子育て支援拠点事業及び利用者支援事業（基本型）における利用者の個別ニーズの把握・相談対応状況に関する調査研究（令和元年度厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業）』子育てひろば全国連絡協議会、2020。
- (4) 小池由佳・伊藤真理子・山口智・川村雅子・佐藤勇・小柴真一・丸田秋男「包括的な子育て支援体制における電話相談の役割：『子育てなんでも相談センターきらきら』の実践から」『人間生活学研究』（11）、45-52、2020。
- (5) 子育てひろば全国連絡協議会「『緊急オンラインブロック会議』の報告（ダイジェスト版 PDF）」
(<https://kosodatehiroba.com/pdf/20box/2020online-block.pdf>)。
- (6) 同上。

参考文献

- (1) 橋本真紀・奥山千鶴子・坂本純子編著、子育てひろば全国連絡協議会編集『地域子育て支援拠点で取り組む利用者支援事業のための実践ガイド』中央法規、2016。
- (2) 細井菜々美・小林千幸・畠山佳織・栗田順子・菅原民枝・大日康史・野原理子「子育て支援における感染症流行のリアルタイム情報の有用性についての検討」『厚生指針』67(5)、14-19、2020。
- (3) 坂本純子・伊藤篤・倉石哲也・鶴宏史・奥山千鶴子・中條美奈子・岡本聡子『地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が親の成長に促すプロセス分析と支援者の役割に関する調査研究（平成30年度厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業）』子育てひろば全国連絡協議会、2019年。
- (4) 渡辺顕一郎・橋本真紀編著、子育てひろば全国連絡協議会編集『詳解 地域子育て支援拠点ガイドラインの手引（第3版）』中央法規、2018。